

## 最近の調剤医療費（電算処理分）の動向 平成 28 年 11 月

### ○ 概要

(1) 平成 28 年 11 月の調剤医療費（電算処理分に限る。以下同様。）は 6,212 億円（伸び率（対前年度同期比、以下同様。）▲2.2%）で、処方せん 1 枚当たり調剤医療費は 8,801 円（伸び率▲8.6%）であった。（→P.1~2）

調剤医療費の内訳は、技術料が 1,584 億円（伸び率 7.6%）、薬剤料が 4,618 億円（伸び率▲5.2%）で、薬剤料のうち、後発医薬品が 737 億円（伸び率 7.5%）であった。（→P.4）

3要素分解 （→P.8-9）	処方せん 1 枚当たり 薬剤料	処方せん 1 枚当たり 薬剤種類数	1 種類当たり 投薬日数	1 種類 1 日当たり 薬剤料
実数	5,380 円	2.91 種類	22.1 日	84 円
伸び率（%）	▲13.1	▲0.9	+0.0	▲12.4

(2) 薬剤料の多くを占める内服薬 3,798 億円（伸び幅（対前年度同期差、以下同様。）▲287 億円）を薬効大分類別にみると、総額が最も高かったのは 21 循環器官用薬の 828 億円（伸び幅▲54 億円）で、伸び幅が最も高かったのは 42 腫瘍用薬の 21 億円（総額 245 億円）であった。（→P.10）

年齢区分 （→P.10~15）	内服薬 総額 （伸び幅）	総額順（総額）		
		1 位	2 位	3 位
全年齢	3,798 億円 （▲287 億円）	21 循環器官用薬 （828 億円）	11 中枢神経系用薬 （640 億円）	39 その他の代謝性 医薬品（530 億円）
0 歳以上 5 歳未満	42.6 億円 （▲3.6 億円）	44 アレルギー用薬 （19.0 億円）	61 抗生物質製剤 （10.2 億円）	22 呼吸器官用薬 （6.5 億円）
5 歳以上 15 歳未満	95.6 億円 （0.6 億円）	44 アレルギー用薬 （39.6 億円）	11 中枢神経系用薬 （16.1 億円）	61 抗生物質製剤 （15.6 億円）
15 歳以上 65 歳未満	1,318 億円 （▲102 億円）	11 中枢神経系用薬 （274 億円）	21 循環器官用薬 （249 億円）	39 その他の代謝性 医薬品（194 億円）
65 歳以上 75 歳未満	946 億円 （▲112 億円）	21 循環器官用薬 （251 億円）	39 その他の代謝性 医薬品（158 億円）	11 中枢神経系用薬 （111 億円）
75 歳以上	1,396 億円 （▲70 億円）	21 循環器官用薬 （326 億円）	11 中枢神経系用薬 （238 億円）	39 その他の代謝性 医薬品（174 億円）

(3) 処方せん 1 枚当たり調剤医療費を都道府県別にみると、全国では 8,801 円（伸び率▲8.6%）で、最も高かったのは北海道（10,586 円（伸び率▲5.8%））、最も低かったのは佐賀県（7,572 円（伸び率▲14.0%））であった。

また、伸び率が最も高かったのは北海道（伸び率▲5.8%）、最も低かったのは和歌山県（伸び率▲18.6%）であった。（→P.27~28）

## 《《後発医薬品の使用状況について》》

【後発医薬品薬剤料】 737 億円（伸び率：7.5%、伸び幅：52 億円）（→P.36~37）

【後発医薬品割合】（→P.35）

	後発医薬品割合	伸び幅
数量ベース（新指標） <sup>注</sup>	67.5%	+7.2%
薬剤料ベース	16.0%	+1.9%
後発品調剤率	68.0%	+4.2%
（参考）数量ベース（旧指標）	45.0%	+4.4%

注）〔後発医薬品の数量〕 / （〔後発医薬品のある先発医薬品の数量〕 + 〔後発医薬品の数量〕）で算出。

【後発医薬品 年齢階級別】（→P.37）

	全体	最高	最低
後発医薬品薬剤料の伸び率	+7.5%	+25.3% （5 歳以上 10 歳未満）	▲0.9% （60 歳以上 65 歳未満）
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	16.0%	16.8% （75 歳以上）	11.5% （10 歳以上 15 歳未満）

【後発医薬品（内服薬） 薬効分類別】（→P.38~44）

年齢区分 （→P.38~44）	内服薬 総額 （伸び幅）	総額順（総額）		
		1 位	2 位	3 位
全年齢	654 億円 （+43 億円）	21 循環器官用薬 （181 億円）	23 消化器官用薬 （109 億円）	11 中枢神経系用薬 （76 億円）
0 歳以上 5 歳未満	7.2 億円 （+0.9 億円）	22 呼吸器官用薬 （2.9 億円）	61 抗生物質製剤 （1.6 億円）	44 アレルギー用薬 （1.6 億円）
5 歳以上 15 歳未満	14.3 億円 （+2.6 億円）	44 アレルギー用薬 （5.6 億円）	61 抗生物質製剤 （3.7 億円）	22 呼吸器官用薬 （2.9 億円）
15 歳以上 65 歳未満	217 億円 （+16 億円）	21 循環器官用薬 （50 億円）	11 中枢神経系用薬 （33 億円）	23 消化器官用薬 （31 億円）
65 歳以上 75 歳未満	165 億円 （+4 億円）	21 循環器官用薬 （59 億円）	23 消化器官用薬 （27 億円）	33 血液・体液用薬 （18 億円）
75 歳以上	250 億円 （+20 億円）	21 循環器官用薬 （72 億円）	23 消化器官用薬 （50 億円）	11 中枢神経系用薬 （32 億円）

【後発医薬品 都道府県別】（→P.57~62）

	全国	最高	最低
処方せん 1 枚当たり後発医薬品薬剤料	1,044 円	1,414 円（北海道）	874 円（福岡県）
処方せん 1 枚当たり後発医薬品薬剤料の伸び率	+0.5%	+4.3%（秋田県）	▲4.2%（奈良県）
新指標による後発医薬品割合（数量ベース）	67.5%	79.0%（沖縄県）	57.8%（徳島県）
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	16.0%	20.4%（鹿児島県）	13.0%（徳島県）
後発医薬品調剤率	68.0%	77.6%（沖縄県）	61.3%（山梨県）
（参考）旧指標による後発医薬品割合（数量ベース）	45.0%	55.9%（沖縄県）	39.0%（徳島県）

〔利用上の留意点〕

分析対象レセプトの特徴

- 審査支払機関（社会保険診療報酬支払基金及び国民健康保険団体連合会）において、レセプト電算処理システムで処理された調剤報酬明細書のデータを分析対象としている。
- 平成 28 年 11 月現在の電算処理割合は、処方せん枚数ベース、医療費ベースともに約 99%である。